

# 川田川の氾濫及び内水氾濫による川田中小学校の 場所への影響、候補地の検証について

## 1 吉野川水系中央南部圏域（飯尾川除く）河川整備計画 【平成24年12月 徳島県作成】

### （1）川田川の河川改修整備

#### ・ 局部改良事業 … 昭和59年(1984年)着手、昭和63年(1988年)完了

河床の局所的な深掘れ等により、堤防の安全性が著しく低下していたことから、局部改良事業に着手し、計画対象区間の全区間で改修が完了している。

#### ・ 小規模河川改修事業 … 平成元年(1989年)着手、平成19年(2007年)完了

流域住民の生命や資産を洪水から守るため、概ね50年に1回程度の規模の洪水であるピーク流量 750m<sup>3</sup>/sを安全に流下させることを目標として河川整備を進め、完了している。

#### ・ 維持管理

徳島県は今後、河川の現状や地域の特性を踏まえつつ、災害発生の防止又は軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、関係機関と連携しながら、河川の有する本来の多面的な機能及び河川整備により向上された機能の維持に努めることとしている。

## 2 川田川浸水想定区域図 【平成19年5月 徳島県作成】

平成19年5月時点の川田川の河道の整備状況等を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる降雨である概ね50年に1回程度の大雨が降ったことにより、川田川の水位が氾濫の危険となる水位に達した時点で堤防が決壊した場合に想定される浸水区域を表したもの。

この浸水想定区域図によると、川田中小学校の校地周辺については浸水想定区域に入っていない。

## 3 吉野川市防災マップ 【平成18年3月 吉野川市作成】

平成16年10月の台風23号の被害実態、地元の方からの情報等により想定される内水氾濫の浸水区域を表したもの。

この防災マップの洪水編（内水浸水）によると、川田川浸水想定区域図と同様に川田中小学校の校地周辺は浸水想定区域に入っていない。

## 4 川田川の氾濫及び内水氾濫による浸水想定区域図

別紙のとおり（3ページに掲載）

## 5 調査・検討

### （1）川田中小学校区

川田中小学校は、天井川（河床が周囲の平野面より高い河川）である川田川沿いにあるが、川田川は県の河川整備計画において既に改修が完了している。また、川田川浸水想定区域図及び吉野川市防災マップにおいて、川田中小学校の周辺は浸水想定区域に入っていないため、川田中小学校の場所を候補地の一つとする。

続いて、川田中小学校の場所以外で候補地を検討した場合、浸水想定区域に入らない区域は川田中小学校から南側の区域だけになるが、川田中小学校と同程度の面積のまとまった土地の確保は難しいことから、川田中小学校区の中で、川田中小学校の場所以外から候補地を選定することは難しいと考える。

### （2）川田小学校区

川田小学校を含む川田小学校区の中で検討した場合、川田小学校は校地保有面積が狭く、周辺道路の幅員が狭いこと、川田小学校区は川田川浸水想定区域図・吉野川市防災マップによると、平地の北側半分の地域が浸水想定区域になっていること、南側半分の地域は住宅地が密集していること、高台の地域は道路の幅員が狭いことから、川田小学校区の中で候補地を選定することは難しいと考える。

### （3）川田西小学校区

川田西小学校を含む川田西小学校区の中で検討した場合、川田西小学校は校地保有面積が狭く、川田西小学校区は川田川浸水想定区域図・吉野川市防災マップによると、ほとんどの地域が浸水想定区域になっていることから、川田西小学校区の中で候補地を選定することは難しいと考える。

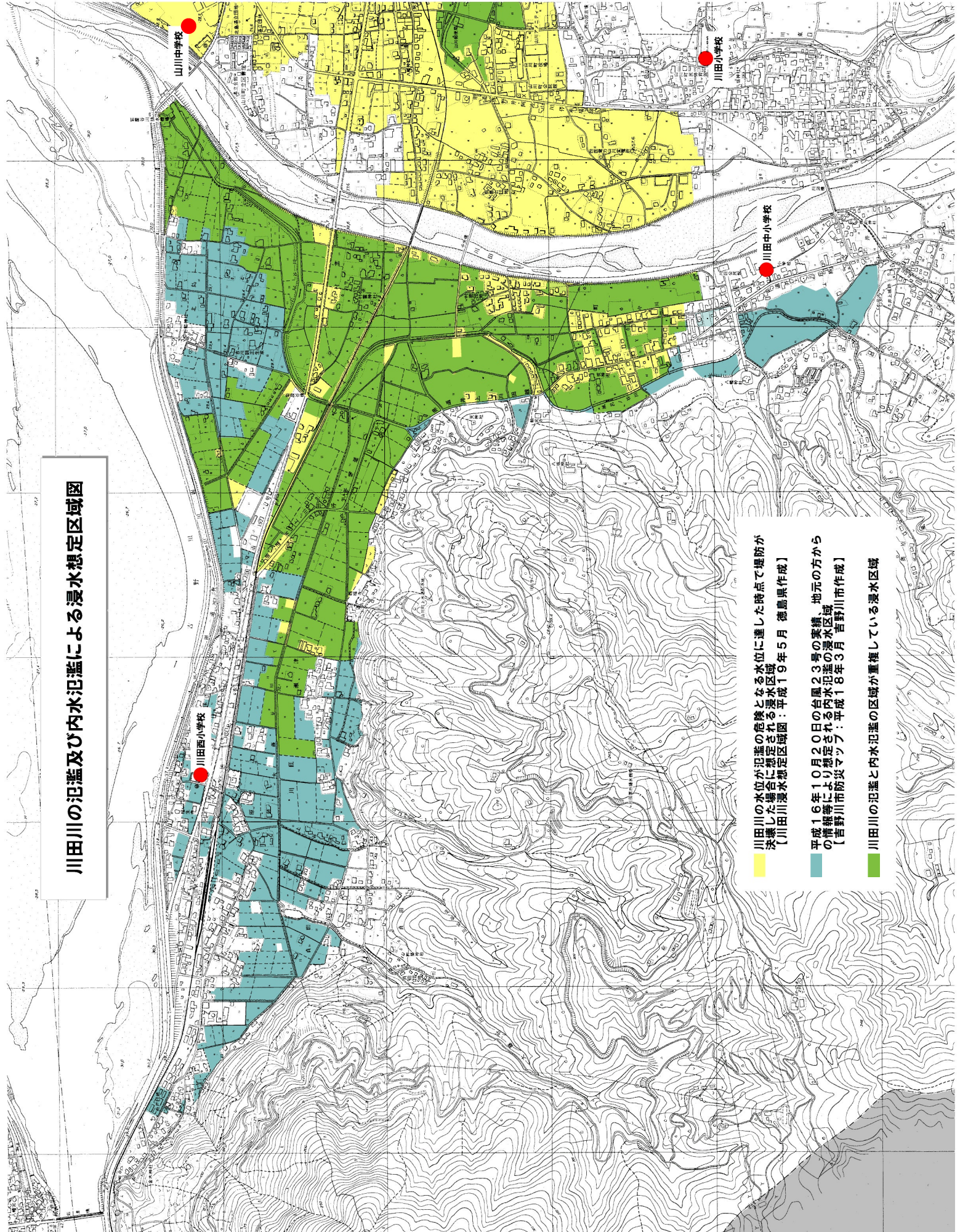
#### （参考）

学校名	校地保有面積	学校名	校地保有面積
川田小学校	7,932㎡	川田西小学校	3,856㎡
川田中小学校	14,195㎡	種野小学校	4,496㎡
		14小学校平均	11,295㎡

## 6 結論

川田小学校・川田中小学校・川田西小学校・種野小学校の4小学校を再編する新しい学校は、川田中小学校の場所が適切であると考えられる。

# 川田川の氾濫及び内水氾濫による浸水想定区域図



- 川田川の水位が氾濫の危険となる水位に達した時点で堤防が決壊した場合に想定される浸水区域  
【川田川浸水想定区域図：平成19年5月 徳島県作成】
- 平成16年10月20日の台風23号の実績、地元の方から  
の情報等により想定される内水氾濫の浸水区域  
【吉野川市防災マップ：平成18年3月 吉野川市作成】
- 川田川の氾濫と内水氾濫の区域が重複している浸水区域